

聽訟指令二篇

近藤圭造編輯
貸借補遺

五
附錄

C2
3
035

館書圖京東	
函一	門新
架二	部一一
號一〇	類

共
十五本



CZ
3
035



聽察指令第二篇目錄

貸借賣買 補遺

第五卷 附錄

第一 死去ノ隱居押印ノ事

第二 約定賣買ノ事

第三 書替ハ轉貸ノ事

第四 家賃ノ事

第五 甲乙丙貸金ノ事

第六 同上

第七 書改メザル證文ノ事

第八 商用ニ店判ヲ用ヒタル事

明治八年發行

内務省准刻局

徳公指針 卷下附錄目錄

第九 借家借地ノ事

第十 押印ノ事

第十一 奉還聞届ケ中除族ノ事

第十二 十箇年以上質地据置ノ事

第十三 賣買違約ノ事

第十四 無印証書ニ役人押印ノ事

第十五 約定金半渡シノ事

第十六 他人ヨリ解放前貸金ノ事

第十七 丁外前ノ社倉米ノ事

第十八 賣買牒簿貸借ノ事

第十九 同居ノ子弟貸借ノ事

第二十 終審ノ後別段申立ノ事

第二十一 賣樹金等ノ事

第二十二 代償ノ事

第二十三 地所賣買ノ事

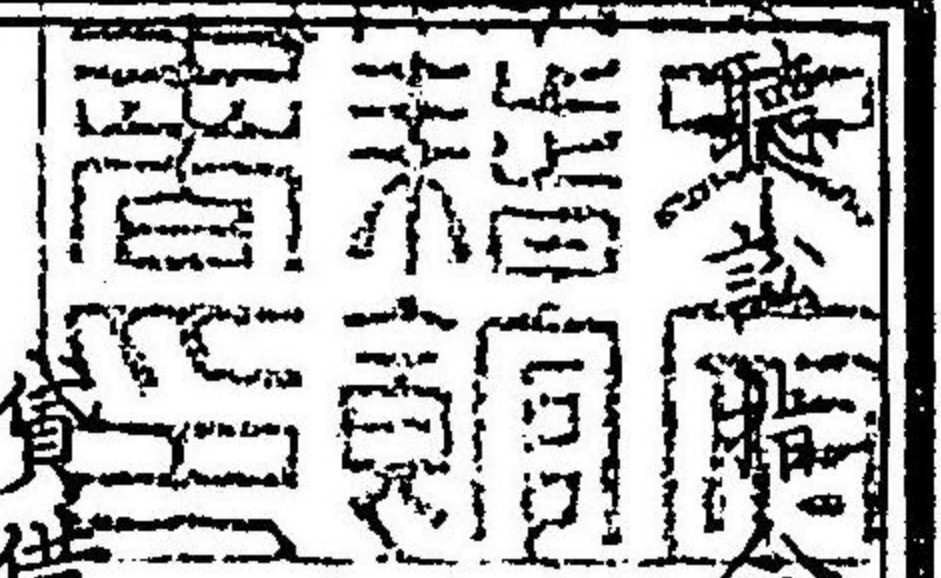
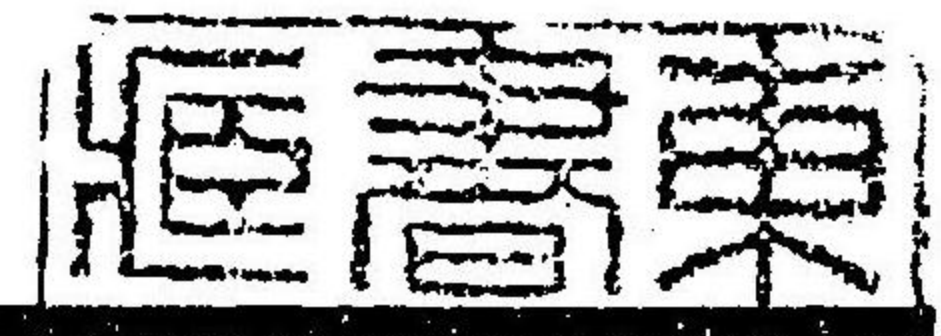
第二十四 懲役人ハ負債ノ事

第二十五 賣掛金ノ事

第二十六 違約賣買ノ事

第二篇卷五附錄貸借賣買之部

三河 近藤圭造 編集



貸借賣買 補遺

第壹 死去ノ隠居押印ノ事

同第六十三号司法省裁判所申渡
七年三月三十一日

死去ノ隠居押印

其方共訴訟遂吟味所被告池田庄八所持ノ金百二十兩ノ預
リ一札八原告長谷川丑藏父隠居八郎左衛門へ預リ置候儀
ニ相聞ルト雖モ右八郎左衛門名前ノ下ニ押シ有之印形ハ
戸主丑藏ノ實印ニシテ隠居八郎左衛門ノ實印ニ無之ニ付
八郎左衛門へ預ケ金ノ證據ニハ不相立尤隠居八郎左衛門
戸主丑藏ノ實印ヲ謀判致スカ又ハ外ニ行違有之哉證書真

偽裁判ノ儀ハ、本人死失致シ、預リ一札中ニ證人モ無之ニ付、今更難及吟味、又隱居八郎左衛門ヘノ預金ヲ、死失後戶主丑藏ヲ相手取候儀ハ、先戶主ヘノ預ケ金ヲ、死失後相續ノ戶主ヲ相手取候トハ、筋違ヒニ有之、殊ニ丑藏於テハ承諾ノ連印モ無之、剩預金致候節、兩日共丑藏儀ハ、其場ニ不居合段、則被告ヨリ申立、原告於テモ、父八郎左衛門預候儀毛頭存不申段申立ル上ハ、隱居八郎左衛門死失後、戶主丑藏ヲ相手取候筋ハ難、相立、將、又原告ヨリ申立ル謀書ノ儀モ、八郎左衛門ノ謀書ニ候哉、又ハ外ニ謀書人有之カ、是、又八郎左衛門死失後ニ付、難、遂詮議ト雖モ、前條ノ通、丑藏於テ百二十兩ノ預金ニ關係無之ニ付、被告池田庄八ヘ返却スヘキ筋無之儀ト、可相心

得者也 名面 畧之

但本文ノ通、被告申分不相立候テ、原告ハ預リ金ニ關係無之上ハ、新潟裁判廳并司法裁判所ノ訴訟入費ハ、庄八ヨリ丑藏ヘ可相渡事、

第貳 約定、賣買ノ事

同第百五号飾磨縣伺 七年六月八日指令

約定

米賣付証券別紙書体 畧ノ如キハ、第一類ニ屬スル者ト存候得共、賣附ノ節、入金請取、餘ハ殘金ニ引替、相渡ス可キノ字アルヲ以テ、或ハ約定書、類似ノ部ニ有之間敷哉、些ク疑議ヲ生セリ、因テ之ヲ印税規則ニ照スニ、第十三條中、商賣上ニ關シ、金高ヲ以テ取極候分ハ云々、但シ金銀ニ關シ候分ト雖モ、無利息ノ分ハ、第一類ニ準シ可申ト有之ニ據レハ、該件ハ顯然

無利息ノ分ニ付、一類ノ部ト見做シ可然哉、將夕同條中、啻ニ書面上ニテ賣買ノ約ヲ定ムルト有之ニ比擬スレハ、第二類ニ屬シ、約定書ト見做スヘキ哉、

但シ若シ約定書ヲ以テ論スレハ、辛未年九月中、御布告モ有之ニ依リ、買附方ヨリモ証券差入ルヘキノ處、其儀無之時ハ、御布告ニ違背スルノ廉ヲ以テ裁判ニ不及可然哉、

凡、約定書ト稱スルハ、物品賣買上、取渡シノ期限ヲ定メ、若違約ニ及フ節ハ、幾分出金可致等ノ趣、証書中判然記載シ、雙方爲取替有之分ノミニ候哉、將夕雙方ノ爲取替ハ無之、一方ノ分ニテモ、右等ノ廉証書中ニ明記有之分ハ、即チ利息附ト見做シ可然哉、相伺候也、

指令

第一條 證券印紙規則第二十條ノ三項ニ據リ可申事、

但買入方ヨリ、證書不受取ハ、賣人ノ不行届ニ付、違約等ニ至ル時ハ、其賣人ヨリ訴訟ヲ爲スヲ能ハサル迄ニテ、

買人ヨリ買附証書ヲ以テ、出訴致スルハ、取上裁判ス可キ事、

第二條 雙方爲取替而已ニ限ラス、其約束ノ義務ヲ掲ケタル者ハ、都テ約定書タルヘシ、將又賣買ノ約定証書ハ、利息

ノ有無ヲ論ス可キ者ニ非ス、即、一條指令ノ通可心得事、

第三

書替ハ轉貸ノ事 同第百二十一号司法省裁判所申渡 七年七月二日

其方共、訴訟遂、吟味處、原告中澤甚八儀、去ル明治元戊辰年以

轉貸

來、一蓮寺先住本曉ヨリ、追々借受タル金高、三百六十八圓六錢二厘五毛、庚午ノ歲ニ至リ、金主求ニ寄、惣額ノ内、百五十圓ニ對シ、土藏長屋等質物ニ差入、取扱人秋山太兵衛名宛ノ證書ニ改正シ、太兵衛ヨリハ、更ニ一蓮寺ヘ借主ノ證書差入置タル所、返濟遲滞ニ及ヒ、一蓮寺ヨリ太兵衛ヘ催促ヲ受候ニ付、太兵衛ヨリハ、甚ハハ係リ、山梨裁判所及出訴候所、證書文中辰年一蓮寺云々ト有之ニ依リ、採用不相成、然ルニ其後一蓮寺ヨリ、太兵衛ニ係リ、前書切替證文ヲ以、致出訴吟味ノ上、已巳六月以後ニ起ル、社寺貸借ニ決シ、雙方示談ヲ遂、濟方解訟ニ及ヒタル所、尚、亦太兵衛儀、最前下却ニ成リタル證書ヲ以、甚ハハ係リ、再ヒ訴ヘ出タル所、右證文中辰年云々ノ明文

家賃

モ有之、且、太兵衛ヨリ、一蓮寺ヘ差入レタル證書ト、月付相違致シ居ルヲ採用ニ相成、更ニ濟方被申渡タル段、甚ハハ於テ何分承服難成、控告致シ候趣申立ルト雖、一蓮寺ト太兵衛ノ約定ハ、甚ハハ關係無之、從テ太兵衛ト甚ハハノ約定モ、亦一蓮寺ノ與カレ事ニ非ス、抑、甚ハト太兵衛ノ約定ハ、庚午六月ヨリ發起ノ儀ニ付、假令辰年云々ノ文言アルモ、壬申三百號御布告ニ干涉ノ筋無之、依テ原告代言人喜兵衛申立ノ趣、採用難相成、證文面ノ通、元利共被告太兵衛ヘ償却可致事、但訴訟入費ノ儀ハ、規則ノ通り、甚ハヨリ可致償却事、名面畧之

第四 家賃ノ事

同第百三十号司法省裁判所申渡
七年七月二十五日

其方共訴訟遂、吟味所、原告長村保固所持ノ家屋、昨年十一月

二日ヨリ、當三月七日迄四箇月間、家賃一月毎ニ、金五十圓ノ約定ニテ、被告柴山典外一人へ借受、更ニ他人へ貸置タル所、期限ニ至リ不得止事故有之、同月十五日迄家賃前約ノ通ニテ、猶豫類置タル所、住居ノ者引拂不致、尚廿二日迄猶豫ヲ請ヒ、家賃ノ儀ハ、更ニ八日ヨリ廿二日迄、金五十圓可相渡約定ノ所、兎角引拂不致、家主保固ヨリハ類ニ及催促、終ニ東京裁判所へ致出訴、審判中保固ニ於テモ、典外一人ノ不得止事情アルヲ察シ、家屋取戻ノ儀ハ強テ不相迫然レモ家賃ノ儀ニ付テハ、別段請求ノ次第モ有之所、典外一人其求ニ應スル事不能、依テ裁判申渡ノ趣ハ、期限後三月八日ヨリ、同三十一日迄、一月未滿ト雖モ、金五十圓、四月五月ハ一月毎ニ、金五十圓

可拂入旨及裁判タル所、原告不服ヲ稱へ、控告致ス趣ハ一月五十圓ハ、當初四箇月間ノ約定ニテ、其後三月八日ヨリ、同廿二日迄十五日間ニ、五十圓ト相定タル上ハ、其約定通可請取方、至當ノ旨申立ルト雖モ、最後ノ約定モ又廿二日ニテ滿限ナレハ、廿三日後ハ全ク約定無之、然レモ期限過キ候テモ、家作不明渡ヨリ致出訴、終ニ期限後ニ遷延シタル儀ニ付、最後ノ約定ニ準スルヲ相當トス、故ニ東京裁判所ノ裁判、第三條ハ取消、三月八日以後ノ家賃ハ、十五日ニ付、五十圓ノ割合ヲ以テ、請取渡可致事、

但訴訟入費ハ、被告人ヨリ償却申付候事

第五

甲乙丙貸金ノ事

同第百三十二号神奈川裁判所
七年七月三十日指令

貸甲
金乙
丙

訴訟掛金

卷十附録

甲某ナルモノ、乙者ニ借財アルカタ、兼テ丙者ヨリ取置貸
 金證文ヲ以テ、乙者ニ譲ル、丙者モ亦他ノ譲リ金券ヲ以テ、甲某
 ニ對シ、己レノ前借ト差引精算ヲ促シ居ル内、甲某失踪イタ
 ス處、乙者ハ甲ヨリ譲リ受タル金券ヲ以テ、丙ニ掛リ返辦ヲ
 訴ルニ到リ、丙ハ甲ヨリ得ヘキ金券ヲ以テ甲某失踪前引合
 ノ通、差引勘定遂度旨ヲ答フ、右等ノ争訟ハ、乙ヨリ丙ニ對ス
 ル分而已、濟方申付、丙ヨリ述ル處ノ差引合ハ、甲某失踪中ニ
 付、不取上シテ可然筋トモ、一應ハ相考候得共、一体貸借證文ノ
 儀ハ、バンク手形ナト、ハ譯柄相違、差引勘定等ノ情實モ有
 之事ニ付、譲リ證券ヨリ起ル訴訟ハ、券面ニ記載セル、負債者
 ノ承諾ヲ得シモノニアラスシテ、原故子細有之、譲入逃亡死

失セル分ハ、訴狀差下ケ候方可然哉ニ存候、右ハ事柄相混シ
 候儀ニ付、御見合セノ爲、別冊訴狀答書之相添、相伺候也

指令

原告後藤勝五郎請求スル所ノ金ハ、本証書ハ廣瀬常吉名宛
 ナリト雖モ、既ニ勝五郎於テ譲受タル上ハ、最早常吉ノ手ハ
 離レタル者ナリ、然レハ被告中川兵助於テ、山口久米藏ヨリ
 譲受タル証書、右常吉ニ掛リ、請求ス可キ金アルヲ以テ、原告
 勝五郎ニ對シ、彼是苦情等申立ル筋ハ之レナキ筈ニ付、速ニ
 辨濟致ス可キ様裁判及フ可ク、將又兵助ヨリ常吉ニ掛ル訴
 訟ハ、失踪後ニ付、本人見當ルカ、又ハ三十六箇月過キタル上
 ニテ、訴出ツ可キ旨、申渡ス可キ事、

第六 同上 同第百三十四号司法省裁判所申渡 七年八月二日

同上

長岡萬之助儀、横濱商人故山城屋和介へ對ス、負債償却難相成身代限、處分及ヒ候處、萬之助儀、去明治二己年十一月七日、長谷川平左衛門へ貸金百圓有之旨、申立候ニ付、其段平左衛門へ相尋候所、右ハ差引濟方致シ候旨、平左衛門ヨリ申立候ニ付、雙方遂吟味所、右ハ平左衛門ヨリ、同郡長島村亡池田屋祐助へ、貸金百二十五圓有之、右祐助ハ萬之助へ預ケ金百三十八圓有之候ニ付、萬之助ヨリ祐助へ、差入有之證書ハ、祐助ヨリ平左衛門へ、相渡シ候上、差引相立候旨、平左衛門申立ノ趣ハ、取調ノ上、事實判然致シ、就テハ右證書ヲ以、萬之助ヨリノ負債へ對シ、差引ヲ請求致候ハ、平左衛門於テ、不筋ノ儀ニ

無之候間、萬之助ニ於テ、祐助ヨリノ預リ金ト、差引勘定可致尤、右差引ノ儀、初發平左衛門ヨリ、萬之助へノ掛合方不行届ニテ、萬之助ニ於テハ、是迄承諾不致、平左衛門ヨリ、萬之助へ差入置候證書ハ、依然トシテ猶萬之助財産中ニ有之上ハ、右借用金利息ハ、金高一ケ年百分ノ六ノ割ヲ以、今二日迄ノ分ヲ差出シ可申、依之明治三年午十一月九日萬之助ヨリ祐助へ對セシ、平左衛門所持ノ證書ハ、裏書ノ上、猶平左衛門へ下渡候間、其旨可相心得候事、

裏書

表書金百四拾兩、祐助ヨリ萬之助へ預ケ置候証文ハ、別紙明治五年十月、祐助ヨリ平左衛門へ讓渡ノ定約証文ニ從ヒ、金

百三十八兩、平左衛門ヨリ萬之助ハ預金ノ筋ニ相成候ニ付、別紙明治二年巳十一月七日證文ニテ、萬之助ヨリ平左衛門ハ貸附金、元利金百貳拾七圓九十五錢ハ、表書金百四拾兩ノ内ニテ引之、殘金拾二圓五錢ノ内、金二兩ハ前文讓渡ノ節、已ニ引去リニ相成リ、彌殘金ハ拾圓五錢ト可相心得候事、

第七 書改メサル証文ノ事

同上司法省裁判所申渡 七年八月五日

其方儀、足柄縣管下相摸國津久井郡千木良村農中里伊兵衛ハ相掛ル濟口違變訴訟ノ儀、足柄裁判所ニ於テ、裁判申渡ノ旨趣不伏、申立、今般控告致スニ付、取調候處、被告人伊兵衛ヨリ取置ク明治元年ノ質地証書ハ同六年第十八號、地所賃入書入ノ儀ニ付、御布告第九條ノ規則ニ抵觸致シ、且同五年、右

書改メサル証文

地所小作滞ニ付、紛議ヲ生スル片、熱談濟口証書ノ文言、彌以規則ニ觸候ニ付、前號御布告第十四條、并同六年第百六十七號御布告ニ據リ、同年七月迄ニ證書書改可申ノ處無其儀、右証書ヲ以テ、訴訟致スニ付、及控訴ト雖モ、難及受理訴狀下ケ候事、

第八

商用ニ店判ヲ用ヒタル事

同第百四十四号三重縣伺 七年九月二日指令

商人商法上ノ証書ニ店判ヲ押捺シタルヲ以テ、證據トシ出訴ニ及ヒ、被告豫審スルニ、自分ノ店判ニハ相違ナシト雖モ、隨テ紛議ヲ告訴ス、右ハ明治六年第二百三十九號御布告但書、商法上ノ証書ニ商用印ヲ用ヒ、請取通帳ニ店判ヲ用フルハ格別ト有之、然ルニ前ノ如ク、商法上ノ証書ニ商用印ヲ用

商用店判

ヒスシテ店判ヲ押捺シタルハ、素ヨリ取揚裁判ニ不及儀ニ候哉、相伺候也

指令

商用印ト店判トハ、兩印共商用上ノ証據ト爲シ、裁判致スヘキ事、

第九 借家借地ノ事

同第五百一十一号新瀨縣同七年九月二十二日指令

期限無之借家立退方ノ儀、家主ヨリ訴出ルニ於テハ出訴ノ日ヨリ其事情ヲ量リ、一年ヨリ乃至二年立退クヘキ旨、裁判致シ可然哉、

期限ヲ定メス、他人ノ地所ヲ借受、自ラ家作ヲ爲シ、住居スル者アリ、右地所地主ニ於テ、必用ノ儀有之、家作引拂立退方訴

借家借地

出ルニ於テハ、出訴ノ日ヨリ、其事情ヲ量リ、三年ヨリ乃至五年、可立退旨、裁判致シ可然哉、相伺候也、

指令

本文同二條、雙方約定ノ分明ナラサルモノニ於テハ、更ニ雙方ニ熟議ノ上、其年限等ヲ定メシメ、又ハ直ニ立退キ引拂ハシメ、又ハ家作引拂費用ヲ償フ等ノ一アル可シ、總テ其事情ヲ酌量シテ、裁判ニ及フ可シ、一般ニ年限ヲ定メテ、之ヲ裁判スルヲ得ス、

第十 拇印ノ事

同第五百五十四号和歌山縣同七年九月二十五日指令

御省布達第十五號ニ、保管ノ囚人等ハ、印形爲相用、若シ二三男等ニテ、印形無之歟、又ハ遠隔ノ者ニテ、印形宿許ニ差置候

拇印

類ハ其譯氏名ノ左側ニ書記シ、拇印爲致可申ト有之、然ルニ
婦女ノ如キハ、戸主ニ非サルヨリハ、大抵印形ハ之レ無シト
ス、其譯ヲ氏名ノ左側ニ書記シ、拇印爲致可然歟、固ヨリ印形
無之ニ付、直ニ拇印爲致、別ニ其譯ヲ書記スルニ及ハス候乎、
相同候也、

指令

印形無之譯ヲ書記スベシ、

第十壹

奉還聞届ケ中除族ノ事

同第百六十二号岡山縣伺
七年十月八日指令

士族ニシテ、已ニ家禄奉還聞届ケ、未タ資本金下ケ渡サ、ル
中、破廢取甚ノ罪ヲ犯ス者、除族ハ勿論ノ儀ニ候、凡其資本
金ハ如何處分可仕哉、相同候也、

除族ノ
資本金

指令

資本金ハ下渡ス可シ、

第十貳

十箇年以上質地据置ノ事

同第百六十三号大分縣伺
七年十月十日指令

御省日誌、明治六年後第二十三號、入間裁判所伺第二條、私ニ
二十年ノ長年季定約セシハ、不筋ニ付、年季内ニ訴出候共、既
ニ十ヶ年過去候得ハ、流地申付、質取主ハ地券爲受可然哉ノ
御指令ニ、伺ノ通ト有之、是迄十ヶ年以上、年季ノ質地ニシテ、
已ニ十ヶ年過去、出訴ノ分ハ、右ノ御指令ニ依リ、處分致來候
處、御省日誌本年第百八號、橡木裁判所伺第五條十ヶ年以上
ノ年季ニテ、質地ヨリ起ル訴訟云々ノ御指令ニ、明治六年第
百六十七號布告、質入書入規則増補第十五條ニ據リ、取上裁

質地据
置キ

判及、可キ事トアリ、右百六十七號御布告ハ、質入書入、前約ノ年季、据置不苦トノ事ニ有之、就テハ數十ヶ年季ノ質地タリ共約定通り年季為据置不苦儀ニ可有之哉、果シテ然ラハ、是迄十ヶ年以上ノ質地ニテ、已ニ十ヶ年ヲ過候分、流地ノ處分ニ及置候ハ引直シ、改テ据置ノ處分ニ致シ可然哉、相伺候也、

指令

十箇年以上ノ質地ヲ、流地ニ處分スルハ、明治六年七月三十一日以前ニコレアルヘキヲニテ、右明治六年七月三十一日以前ニ、十ヶ年以上ノ質地取戻シノ訴ニ付、流地ノ處分及ヒタルハ、引直スニ不及事、

賣買違約

第十三 賣買違約ノ事

同第百八十四号佐賀裁判所同七年十一月七日指令

手附金ノ授受シ、穀類其他品物賣買ヲナス、其約定書ニ、違約ノ者ヨリ手附金損失、又ハ倍返シノ契約ヲナシ置ク者ノ違約訴訟、手附金損失、又ハ倍返シヲナサレハ、流地ノ裁判ヲナシ、物品取引契約ノ廢ハ、可為取消モノト見做シ可然哉、相伺候也、

指令

手附金損失、又ハ倍返ノ契約ヲ違變シタルノ訴訟ナラハ、其証書面ニ據リ、手附金損失、又ハ倍返シ迄ノ處分ニ止ル事ニテ、物品取引ノ處分ニハ及ハサル事、

第十四

無印証書ニ役人押印ノ事

同上三潯縣伺同月日指令

無印証書
ノ役印

地所讓渡質券書入等ノ証書ハ、舊庄屋奥印ハ慥ニ候共、本人
姓名而已ニテ證印無之ハ、裁判ニ不及儀ニ候哉、此段相伺候
也、

指令

此等ノ訴訟ハ、一旦抹上ケ事實吟味詰ノ上、相當ノ處分可及
事、

第十五

約定金半渡シノ事

同第百八十五号佐賀裁判所
七年十一月八日指令

穀類賣買等ニ至テハ、代金ノ全部半部亦ハ幾部分ヲ前渡ニ
シテ、取引ノ期限ヲ約シタル者、往々有之處、賣方ニテ其物品
ヲ渡サ、ルニ付、買方ヨリ違約ノ廢ヲ以テ物品受取ノ訴訟ヲ
ナス者ノ期限、如何相心得可然哉、右相伺候也

約定金
半渡シ

指令

買附品引渡違約ハ賣掛代金ニ比准シ商業互ト互ニ非サル
トノ區分ニ因リ六ヶ月又ハ一ケ年ノ期限ヲ以テ處分致ス
ハキ事

第十六

他人ヨリ解放前貸金ノ事

同第百八十七号京都裁判所
七年十一月十二日指令

七年本省日誌第七十二號、四月十七日司法省裁判所、壬申
第二百九十五號御布告第四條云々ノ御指令ニ、解放ニ付、亭
主ト藝娼妓トノ間ニ起ル貸借ノ事ノミヲ指候事ト、可相心
得事云々ト有之、然ニ壬申十月第二十二號本省御布達ノ文
意ヲ案スルニ、娼妓藝妓ハ、人身ノ權利ヲ失フ者ニテ、牛馬ニ
異ナラス、人ヨリ牛馬ニ物ノ返辨ヲ求ルノ理アリ云々ト有

解放前
ノ貸金

之、然ハ當ニ亭主ト藝娼妓ノ間ニ起ル、貸借ノミナラス、餘人ヨリ貸ス所ノ金銀、并賣掛滞、金等ニ至マテ、牛馬ヨリ返辨ヲ求ムル義、決テ有之間敷、右本省裁判所伺ノ御指令ト、大ニ抵觸スルニ似タリ、仰、御指揮候也

指令

娼妓藝妓ノ人身ノ權利ヲ失ヒシハ、亭主ヨリ買取シテ、其身ヲ束縛スル事、牛馬ニ異ナラサルナリ、亭主ヲ除キテハ、外ニ娼妓藝妓ヲ束縛シテ、牛馬ノ如クセシトニテラス、故ニ七年日誌七十二號四月十七日ノ示令ト、壬申第二十二號布達ノ旨トハ、同一ノ條理ニシテ、抵觸セシト無之事、付、壬申第二十二號布達第一條中ノ賣買、及ヒ雇人ノ字面、第二條中ノ同上

ノ字面ヲモ、熟讀翫味可致事、

第十七 丁卯前ノ社倉米ノ事

同第百八十九号福岡縣伺
七年十一月十三日指令

丁卯前
社倉米

郡村ニ於テ貯蓄致シ來、候凶荒豫備ノ社倉米ヲ、年々新穀ト詰替ノ為、貸付或ハ其部内窮乏ノ者、救助ノ為、貸渡候類、何レモ利足ノ定無之、只欠減ヲ補ハンタメ、米一俵三斗三ニ付、一升宛計リ込、返納ノ約ヲナシタル者、丁卯十二月已前ノ分ト雖モ、取上ケ裁判可然哉、儀、當七月中相伺候處、社倉取立方、貸渡ノ証書寫、并ニ實際ノ手續明細取調書ヲ以テ、可伺出旨、御指令ニ付、則左ニ、

嘉摩郡中社倉米取立、及ヒ貸渡ノ方法ハ、別紙田中七十郎ヨリ、差出候書付之ノ通ニテ、去ル慶應二寅年中、郡中村々

ハ貸渡、殘米四百五拾俵有之ヲ、新穀詰替ノ積ヲ以テ、被告人古川平六ハ翌卯年返濟ノ約定ニテ、貸付置候處、其後平六家事向非常ノ多難ニテ、期限返米難相成、仍テ別紙証書之_之如ク、三年賦返濟ノ約定ヲナシ、尚追々及催促候ヘ、年延月延等申立、今日迄更ニ返米不致旨、申之候、右ノ通申立候間、採用ノ當否、再ヒ相伺候也、

指令

社倉備米積立ハ、郡村協力ヲ以テ行ヒタル儀ナレハ、乃チ丁卯以前、人民相互ノ金穀貸借ニ付、採上ケ裁判不及事、

第十八 賣買牒簿貸借ノ事

同第百九十八号大坂裁判所 七年十二月二日指令

賣掛金ハ、賣買ノ契約ナク、牒簿上ノ取引ノミニテ、代價可拂

賣買牒簿

ノ期限ナキモノ多々有之、右御布告第四條ニ、條約證書中、期限ナキモノハ、出訴ノ日ヲ以テ期限ト看做ス故、何時訴出ルモ苦シカラストアリ、左スレハ賣掛金ノ出訴期限ハ、可拂期限ヲ定メタル其期限ノ切タル分而已ニテ、牒簿上可拂期限ノ記載ナキモノハ、一年又ハ六箇月ノ區別ナク、出訴ノ日ヲ以テ、期限ト見做シ、何十年ヲ過キ、出訴イタル候共、採上ケ可及裁判哉

飲食料、職人ノ手間代金、一箇年期迄ノ奉公人給料共、其他右ニ類似スル分モ、可拂ノ期限ヲ約シタルモノニ非レハ、前同様相心得可然哉

又條約証書ハ、賣買ノ約ヲナシタル證書ト心得、牒簿上ノ取

引ハ、即金拂ノ廢ヲ以テ採上ケ候儀ニ候ハ、縦令地方ノ習
慣ニテ、二箇月ヲ以テ可拂期アルモ、約シタル證ナキ上ハ賣
買ヲナシタル日ヨリ、六箇月ヲ算ヘ候儀哉
右條々相伺候也、

指令

第一條 牒簿上ノ取引ニシテ、別段延拂ノ約定無之時ハ、其
物品受取渡シノ日ヲ以テ、代金ヲ可拂期限ト看做シ、商人
ト商人ニ非サルトニヨリ、六箇月又ハ一年ノ區分ヲ以テ、
裁判可及事、

第二條 第三條 第一條旨趣ニ准ス可キ事

第十九條 同居ノ子弟貸借ノ事 同第百号新潟縣伺
七年十二月五日指令

同居ノ子弟貸金

父兄ト同居ノ子弟、自今一己ニ金穀ヲ他人ニ貸渡シ、死没ノ
後、其證書ヲ以テ父兄ヨリ借主ニ對シ、還濟ヲ求ル訴訟ハ受
理スルニ及ハサル哉、相伺候也、

指令

父兄ノ籍中ノ子弟ハ、内實父兄ノ許可ヲ受ケ、一己區分所有
ノ財産アリト雖モ、概シテ之ヲ論スル時ハ、其生前ノ養育、死
後ノ吊祭等、總テ戸主ノ保護ニ因ルヘキ者ナレハ、一ノ籍内
ノ財産ハ、總テ戸主ノ所有物タルヘキニ付、戸籍中子弟名宛
ノ證書ヲ以テ、其戸主タル父兄ヨリ訟出ル分ハ、採上裁判及
フヘキ事、

第二十條 終審ノ後別段申立ノ事 同上大坂裁判所伺
七年十二月七日指令

於審後
申立

英商シヨセフヨリ、松永太兵衛へ掛ル帽子一件ニ付、伺書今般御指令第一百八十九号ニ依リ、速ニ始審ノ裁判可及ノ所、寫十九葉見合セト熟考仕候ニ、最前ノ裁判ニ關係無之トノ趣ニハ候へ共、右裁判ニ依リ、品物可受取際ニ至リ、相生シ候苦情ニテ、素ヨリ苦情ハ新規ナレバ、其實接續ノ譯ニテ、此上當方於テ取調品位檢査致シ、最初裁判通リノ品ニ有之候ハ、太兵衛へ為受取候迄ニテ、可相濟候へ共、若シ同人申立ノ通、惡品ニ候ハハ、裁判上品物受取ニ不及旨、申渡サ、ルヲ得サル譯ニ有之、然ルキハ最前ノ裁判ヲ取消候姿ニ相當リ、且、原告人於テ承服不致ハ勿論、司法省裁判所ノ申渡ヲ主張可致、左候節ハ尚又上告致シ候外無之所、一体同裁判所於テ、裁判ニ相成ルトハ

尔申、前書ノ通、接續ノ儀ヲ、更ニ當方ニテ取調候テハ、順序ヲ失シ、外國へ對シ、不都合ニ被存候間、太兵衛願ノ通、御地へ差出候様可取計哉、相伺候也、

指令

松永太兵衛ノ願意、司法省裁判所ノ裁判ニ不服ヲ唱ル儀ニハ無之、別段一種ノ苦情ヲ申立タル譯ニテ、其實接續トハ難申ニ付、外國人原告ニシテ、太兵衛被告ナル時ハ、則先指令ノ通、尤外國人原告ニ非スシテ、太兵衛原告トナリ、訴出ル譯ナラハ、外國領事ノ裁判ヲ受クヘキ筋ト可心得事

第二十壹

賣掛金等ノ事

同第百二十三号名東縣伺
七年十二月七日指令

本年九月二日賣掛金諸職人手間代金店賃取替米金敷金等

賣掛等

總公指令

卷一付録

出訴期限相同候處、賣掛金諸職人手間代金等ノ各種類ニ因
リ、出訴期限ノ區別有之ニ付、廢分ヲ以テ可同出旨御指令ニ付、
左ノ種類ト雖モ、戊辰前後ノ不論成拂ノ期限記載無之分ハ、
昨年十二月三十一日ヲ期限ト相定メ候哉、期限記載無之時
ハ、出訴ノ日ヲ期限ト定候哉、本年一月以後ノ分モ、証書上期
限無之時ハ、同斷出訴ノ日ヲ期ト相定可然哉、
學藝ノ授業料 旅籠料 運送賃 飲食料 手附金 商
人相互ノ賣掛金 職人ノ手間金 日雇人ノ給料 受負
金 芝居等ノ木戸錢又ハ棧敷錢等 男女藝者ノ揚代金
右相同候也

指令

代償

別段延拂ノ約定モナク、即坐拂ノ代償延滞スル者ナレハ、証
書面ノ年月日ハ、即チ可拂期限ニ付、明治六年十二月三十一
日以前ニ取引ヲナシタル者ハ、七年一月一日ヨリ、出訴ノ期
限ヲ起算可致事、

第二十二 代償ノ事 同第二百七号司法省裁判所申渡
七年十二月十七日

代償不服ノ控訴 大坂備後町商小泉清次郎代

言人

原告 野村 單五郎

島 瀬 卯 助

佛國人ハクトリヤンタール

被告社代人 ケーセン子一ル

フオンフヒシエル

原告ニ於テハ、代償ノ義務ナキ証據人ナリト訴ヘ、被告ニ於
テハ代償ノ義務アル保證人ナリト争ニ付、審理判決スル事、
左ノ如シ、

第一條 原告口書第五條、違約ノ一方ヲシテ、必ス其約ヲ履
行セシムヘキ儀ヲ、證スル心得ナルトノ申立ニ據ルルハ、
連帶ノ義務アル者ナルカ故ニ、保證人ニシテ、證據人ニア
ラス、

但シ原告ニ於テハ、兼テ箕内七三郎ノ貧富果シテ如何
ヲ熟知スヘキ筈ナリ、然ニ違約ノ一方ヲシテ、其約ヲ履
行セシムヘキヲ證スルト雖モ、猶連帶ノ義務ナシトノ

義ナレハ其證スル所、始ヨリ詐偽ニ出テ、被告ノ信任ニ
背クモ又甚シ、若シ或ハ七三郎ノ貧富ニ熟知セスシテ、
約ヲ履行セシムヘキヲ證スルト雖モ、猶且連帶ノ義務
ナシトノ義ナレハ、其證スル所、何等ノ思想ニヨリ、何等
ノ事ヲ証明セシヤ、是モ又被告ノ信任ニ背ク、到底連帶
ノ義務アルニ非ルヨリハ、其證スル所、抑何事ナルヤ、依
テ其證スル所ヲ確守セシノンニハ、連帶ノ義務免レ難
シ、况ヤ其口書第十六條ニ申立ル、箕内七三郎ノ所有品
ヲ、預リ置ナカラス、訴ヲモ為サス、依然之ヲ假有シ、本人七
三郎ノ身代限ヲ知ラサル者ノ如キニ至テハ、連帶ノ義
務アル保證人ニ非ルヨリハ、爲スヲ得ヘカラサルノ事

ク、且其證據人長谷川吉兵衛口書第一條、被告ニ於テ
 七三郎一名ニテハ、不承諾ニ付、原告ヲ證人ニ頼ミタル
 趣申立タリ、抑原告ノ連印ニ依リ、被告ノ承諾ヲ受タル
 トノ儀ナレハ、原告ハ其義務ヲ連帶シテ、保證スルニ非
 スヤ、然ラサレハ、被告ニ於テ、承諾不承諾ハ無之筈ナリ、
 第二條 前條ノ如ク、原告ニ於テ保證人タルノ明證之アル
 上ハ、約定書面ニ証人ト記載有之ト雖モ、判決シテ保證人
 トナス、依テハ約定書ニ依リ、元利金額共、本人箕内七三郎
 ヨリ償却シ、其餘元金并右ヘ對スル約定書面ノ利子、此裁
 判ヲ受ケタル日迄ノ分共、原告ヨリ被告ヘ償却スヘキ事、

第二十三 地所賣買ノ事

同第二百八号新治裁判所同
 七年十二月十八日指令

地所

地所賣買ノ儀ハ、壬申二月中大藏省ヨリ布達ノ通、雙方ヨリ
 地券申受、願濟ノ上取引可致ハ勿論ニ候ヘ共、後日違約致シ、
 及出訴時、買者代金ヲ不渡賣者之ヲ求ント訴フル者、即賣掛
 代金ナリ、之ニ反シ買者地所引渡シテ訴フルモ、同ク是賣買
 違約ヨリ起ル儀ニテ、其元同一理ナリ、依テハ本年七月十四
 日附ヲ以テ相伺候、物品賣買ノ約ヲ堅メン為メ云々御指令ニ
 出訴期限ノ儀ハ、伺ノ通りト有之ニ準シ、商人相互ノ賣掛金
 ノ比例ヲ以テ處分致シ可然哉、
 右相伺候也

指令

地所ノ賣買ハ、商人相互ノ賣掛金ト看做ス可カラス、出訴期

限第二條ニ依リ、處分ス可キ事、

第二十四 懲役人ノ負債ノ事 同第二百十号東京府伺
七年十二月二十三日指令

懲役人
ノ負債

懲役中ノ者ハ、負債類有之ニ付テハ、其親戚等ハ談判ヲ遂ケ可相濟乍去到底本人ハ面談不致候テハ、不相協譯於有之ハ、其親戚ヨリ面會可願出儀ト存候ハ、共若シ全ク親屬身寄モ無之、其事由不得止ニ付テハ、他人ト雖モ、白洲ニ於テ面見ヲ聽シ不苦候哉、取締向ハ兼テ御決定ノ通取計可申候、此段相伺候也、

指令

伺ノ通、

第二十五 賣掛金ノ事 同第二百十一号京都裁判所伺
七年十二月二十四日指令

賣掛金

華士族神職僧侶、又ハ農工ヨリ所有ノ物品ヲ商人ハ賣却シ、其代價淹滞ノ訴ヲナス時ハ、規則第何條ニ依リ、取捨シ可然哉、

本業農、或ハ工ニシテ商ヲ兼ヌル者ヨリ、商人ハノ賣掛ハ、規則第一條ニ依リ、取捨シ可然哉、

取引約定シタル節ハ、農工等ニシ、後チ商トナリ、及ヒ當時商ニメ、後チ農工等トナル者ハ、商人ヨリノ賣掛ハ、其取引シタル節ノ身分ヲ以テ、規則各條ニ依リ、取捨シ可然哉、

賣掛金等ヲ、追テ割濟証文ニ改メ、内何圓ハ何月限、何圓ハ何月切、或ハ何年中ト、逐次償入スヘキノ明文アリテ、既ニ其割當ノ九分ハ、出訴期限ヲ過キ、唯一分ノミ期限内タルキハ、其

九分ヲ除キ、残ル一分ノミ、取揚可然哉
右相伺候也、

指令

第一條 規則第二條ニ因ル可キ事、

第二條 商業上ノ賣懸ケハ、規則第一條ニ因ル可キ事、

第三條 規則中、商人相互ノ賣懸ケトハ、商業上互ノ賣買ノ事ナリ、商人ヨリ商人ニ非サル者トハ、一方ノ者ハ、商業ノ爲ノ賣買スルモ、一方ノ者ハ、其所持物、或ハ自己入用ノ爲メ、商業上ニ之レナクシテ、一時賣買ヲ為スヲ指シタル事ナレハ、期限ノ區別ハ、賣買ノ振合ニ因ル可キ筈ニテ、身分ヲ以テ區別スル儀ニハ無之、事、

第二十六 違約賣買ノ事

同第百二十六号司法省裁判所申渡
七年十二月二十八日

神戸在留英國商人ケルヘー
代理人同國人

原告 シツキンス

大坂本町甚倉正兵衛代理人
白川縣士族

被告 有働文太

違約賣買

其方共帽子違約一件、違約味左ノ通、

第一條 原告人ニ於テハ、本國ヨリ取寄タル麥藁帽子ハ、約定ノ如ク、其價ト及ヒ形状モ三通リニシテ、約定書ニ違フ所無之、且、右帽子ハ、器械ヲ以テ製スルモノニ非レハ、分厘

ノ差ヒナキハ、固ヨリ保チ難シ、故ニ初ヨリ微細ノ條約ハ成サ、ル旨ヲ陳述シ、證據人ホース陳スル所、又同シ、

第二條 被告人ニ於テハ、元見本ヲ以、三種ノ帽子ヲ約定セシニ、到着ノ品ハ五種ナルカ故ニ、難受取、且、見本ハ原告人方ニ預ケ置タル旨ヲ陳述セリ、

第三條 前條約定書ヲ閱スルニ、原告申立ノ通り相違無之、尚之ヲ被告ニ推スニ、形状ハ四ツノ區別アリト言フト雖モ、極テ微細ノ論ニ涉リ、相違ト指ス所、竟ニ分明ナラス、元來精細ノ約定モ無之上ハ、如此苦情ヲ唱へ、賣買破談セシトノ申分ハ、難立ト裁決セリ、

第四條 被告ニ於テハ、帽子到着ノ報ヲ得タル日ヨリ、此裁

判ヲ受タル日迄、規則ノ通り殘金ノ高ニ、一箇年利足百分六ノ割合ヲ以、月數ニ應シ、惣金額ト、帽子トヲ速ニ交換スヘシ、

右ノ通申渡候間、其旨可心得事、

右代書人 共

前書ノ通申渡候間、其旨可心得事

聽訟指合卷五附錄 終

觀奕堂藏版

官許 明治八年第六月十五日

吳服町十二番地

東京 坂上半七發兌

